

## ● 使用材料・使用器具

## 使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダSi	20kg/缶
専用骨材1厘	20kg/紙袋
専用骨材3厘	20kg/紙袋
専用骨材5厘	20kg/紙袋

## 使用器具

計量	秤
下塗り	エアレススプレー等
基層塗り	リシンガン又はコテ
模様塗り	スタッコガン又はコテ
模様付け	コテ+硬質スタイロ板+コテ

## ● 標準施工仕様

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダSi	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水 吹付け塗り コテ塗り	1~2kg 0~0.5kg	-				
模様塗り	グラナダSi	20kg	2.5~3	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	専用骨材1厘	6kg					
	専用骨材3厘	2kg					
	専用骨材5厘	10kg					
	清水	0~0.75kg	-				
パターン 付け	配り均し後、硬質スタイロ板などを使用し表面をややひねるように骨材を動かして意匠付けをする。バリなどは、軟らかめの角ゴテで表面を整える。					追っかけ 模様付け	硬質スタイロ板 コテ(押え)
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。					直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。					24以上	

## ● 標準施工要領

## 1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

## 2. 基層塗り

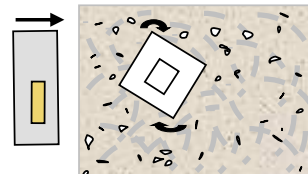
- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤を使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

## 3. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようにする。
- ②主材は、定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

## 4. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、コテL:240~270mm程度の角ゴテを使用してしごく様に均し、続いて150mm角程度の硬質スタイロ板を手首をややひねる様に運びながら意匠付けする。
- ②続いて、表面のバリや引き摺りを角ゴテで軽く押えて整える。パターンは塗布量やコテの動かし方によって骨材の転がりの仕上がりが異なるため、見本板などであらかじめ確認を行っておくようにする。
- ③表面皮張りが早いため、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤手首をややひねる様に硬質スタイロ板を運び、こまめに板に付着のネタを濡れウエスで清浄にしながらい匠付けする。
- ⑥骨材の転がり模様はランダムさを持たせる。
- ⑦骨材の転がりの強弱は壁全体でバランス良く演出する。



## 5. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。